

2022年度 決算説明資料

対象期間：2022.4.1-2023.3.31

2023年5月11日

1. 2022年度 総括

2022年度 連結決算のハイライト

(億円)	21年度 通期実績	22年度 通期実績		22年度 通期計画	
		前期比	計画比		
売上高	10,130	10,621	+4.8% +490	+0.4% +41	10,580
うち、海外売上高	929	1,200	+29.1% +270	△0.5% △5	1,206
営業利益	929	754	△18.8% △174	△2.7% △20	775
営業利益率	9.2%	7.1%	△2.1 pt	△0.2 pt	7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	874	694	△20.7% △180	+11.9% +74	620
E P S	303.62円	247.39円	△56.24円	+26.94円	220.44円
R O E	13.5%	10.0%	△3.5 pt	+1.0 pt	9.0%

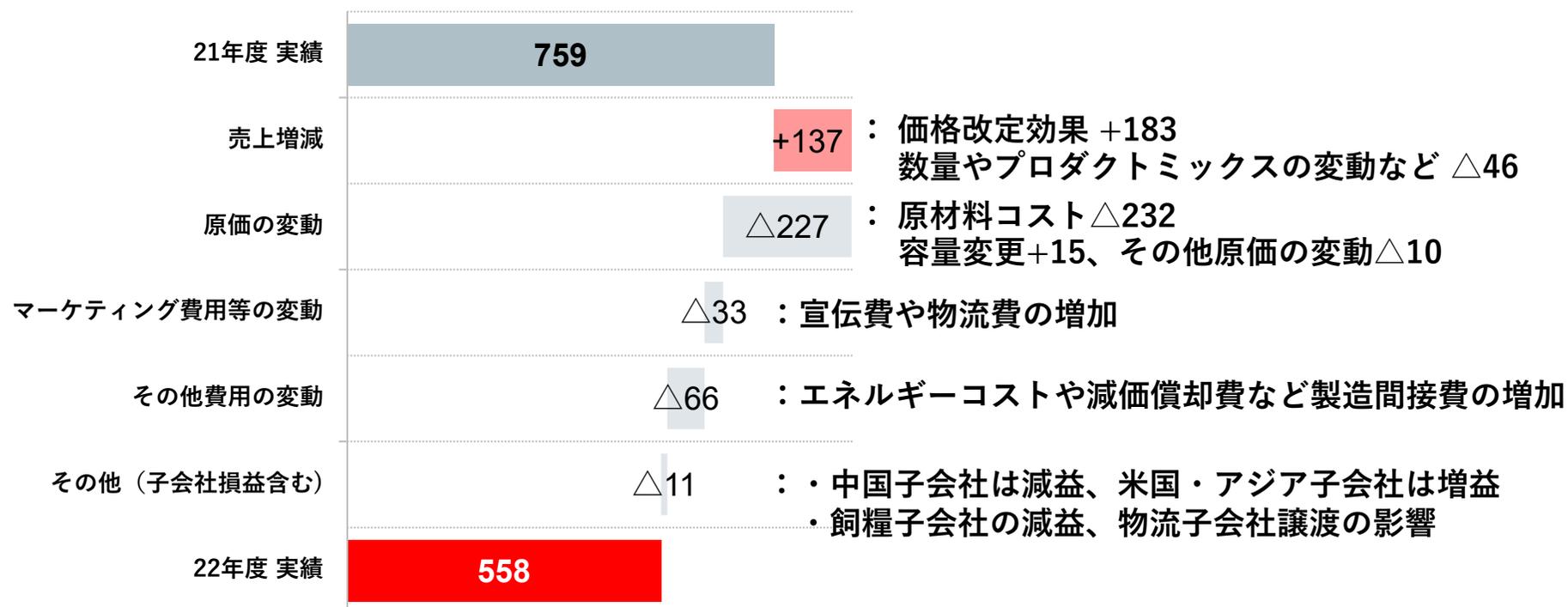
● 通期実績：増収減益

- 売上高は食品、医薬品ともに増収。海外売上高比率は10%を超える
- 営業利益は、食品は大幅減益、医薬品は大幅増益
- 当期純利益は大幅減益となり、ROEは低下
→ 前期に農薬事業譲渡益が計上された特別利益の減少の影響あり
- 政策保有株式の売却が進み、自己株式の取得も実施

食品：2022年度 決算概要

(億円)	21年度 通期実績	22年度 通期実績		22年度 通期計画	
		前期比	計画比		
売上高	8,260	8,656	+4.8% +395	+0.5% +44	8,612
営業利益	759	558	△26.5% △200	△6.9% △41	600

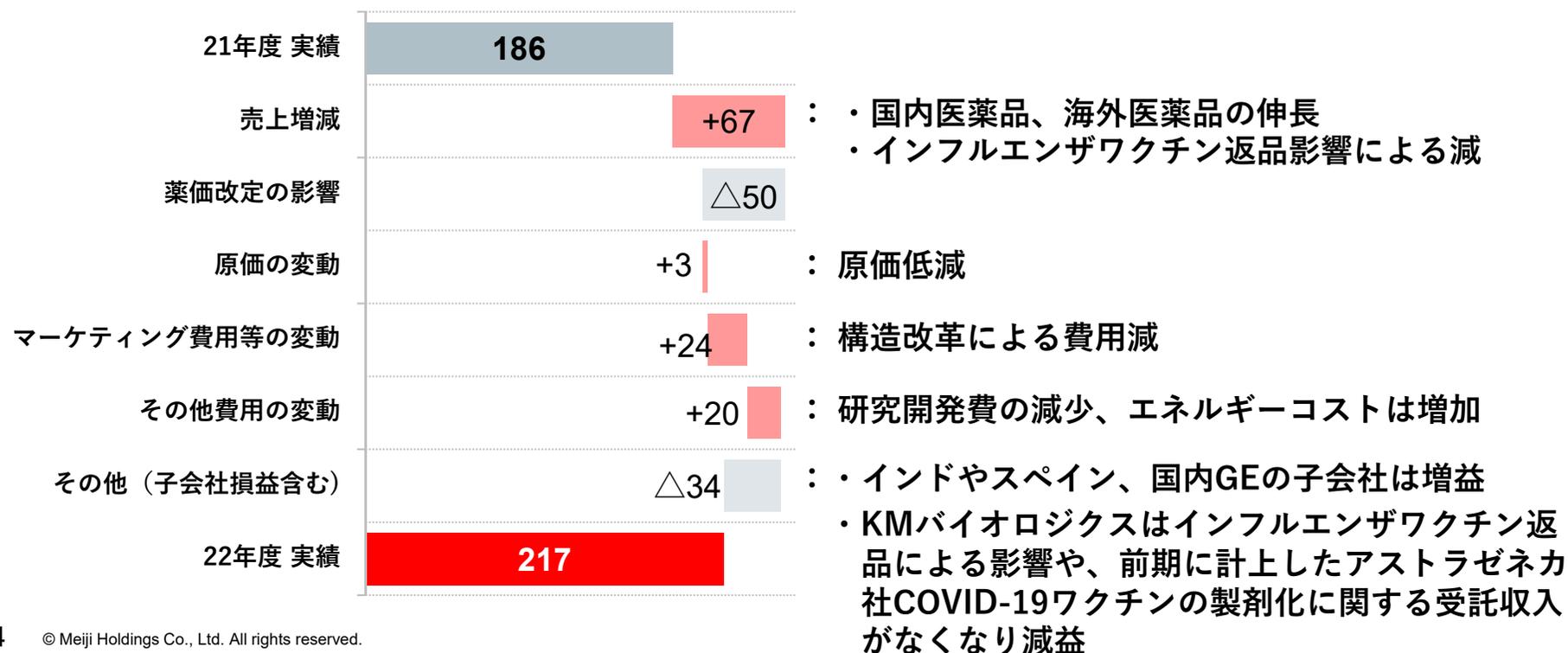
営業利益 増減分析



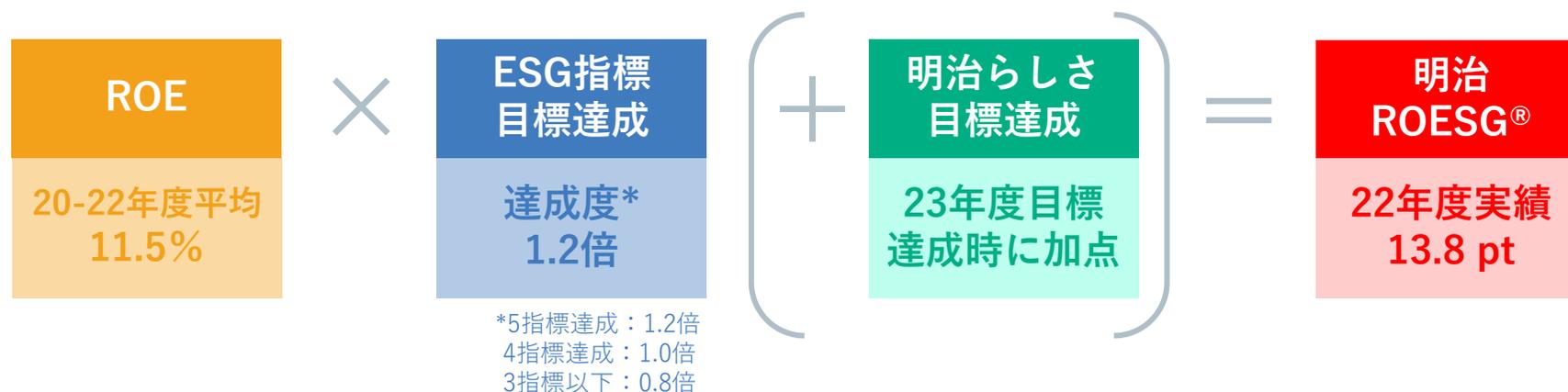
医薬品：2022年度 決算概要

(億円)	21年度 通期実績	22年度 通期実績		22年度 通期計画	
		前期比	計画比		
売上高	1,879	1,972	+4.9% +92	△0.1% △2	1,975
営業利益	186	217	+16.4% +30	+8.6% +17	200

営業利益 増減分析



明治ROESG®：2022年度 ESG評価



評価指標	21年度実績	22年度実績	22年度目標
MSCI ESG Ratings	BBB	A	BBB
DJSI	55点	61点	60点
FTSE4Good	3.0点	3.7点	3.3点
CDP (Climate Change)	A-	A	A-
CDP (Water Security)	A	A	A

- 5つのESG評価指標すべてで目標を達成
- CDPはClimate Change、Water Securityともに最高評価を獲得
- 環境、ガバナンス、労働安全衛生と人財などの取り組みの評価が向上

2022年度 ESGトピックス

- 「2050年 カーボンニュートラルの実現」に向けたロードマップに沿って、取り組みを推進。特に酪農における温室効果ガス（GHG）削減の取り組みが前進
 - ✓ 「明治オーガニック牛乳」のカーボンフットプリント（CFP）算定
 - ✓ 味の素社との協働による、J-クレジット制度を活用したビジネスモデルの構築
- 人権デュー・ディリジェンスの強化に向けて、「外国人労働者雇用ガイドライン」を制定。当社グループにとどまらず、国内の業務委託先企業も含めてガイドラインの理解と運用を促進中
- 栄養プロファイリングシステムの検討など、サステナビリティと事業を融合する取り組みも本格スタート
- グローバルビジネスやサステナビリティ、ダイバーシティに専門性を持つ社外取締役が1名増員。取締役会における中長期視点での議論が活発化

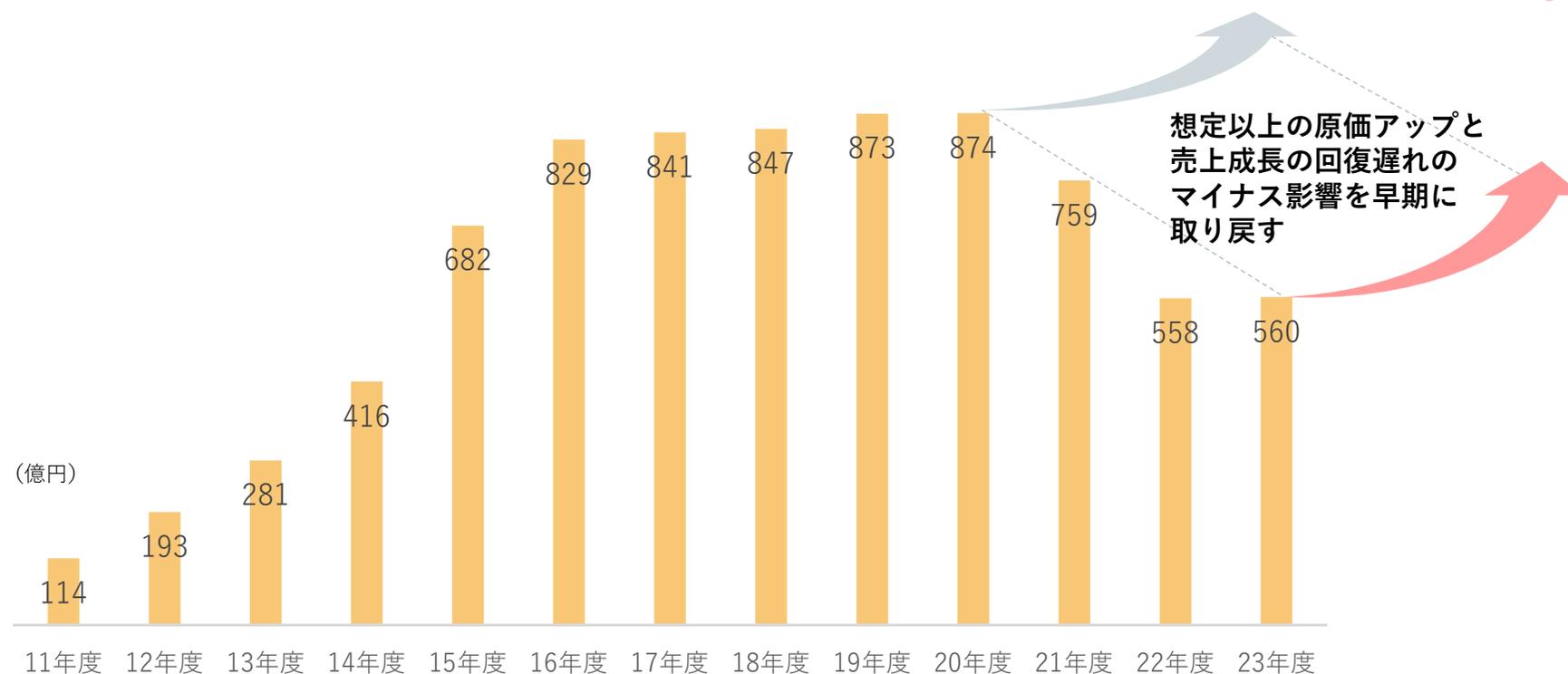
2. 2023年度の見通しと 注力するポイント

2023年度 連結計画

(億円)		上期計画		下期計画		通期計画	
			前期比		前期比		前期比
連結	売上高	5,440	+5.1% +264	5,580	+2.5% +133	11,020	+3.8% +398
	営業利益	320	△25.9% △111	460	+42.7% +137	780	+3.4% +25
	親会社株主に帰属する当期純利益	200	△40.1% △133	310	△14.0% △50	510	△26.5% △184
食品	売上高	4,414	+4.9% +207	4,456	+0.1% +6	8,870	+2.5% +213
	営業利益	259	△11.7% △34	301	+13.4% +35	560	+0.2% +1
医薬品	売上高	1,029	+5.9% +57	1,126	+12.5% +125	2,155	+9.2% +182
	営業利益	73	△50.2% △73	177	+150.3% +106	250	+15.1% +32

- 食品・医薬品ともに増収。営業利益は医薬品がけん引して増益
 - ✓ 食品：価格改定効果は拡大するが、上期までコストアップの影響大
 - ✓ 医薬品：上期は研究開発費増やCOVID-19ワクチンの受託収入減で減益だが、下期にはARCT-154の貢献などを見込む
- 当期純利益は、前期の研究所跡地売却による特別利益計上の反動で減益

食品：営業利益の推移



営業利益の増減要因

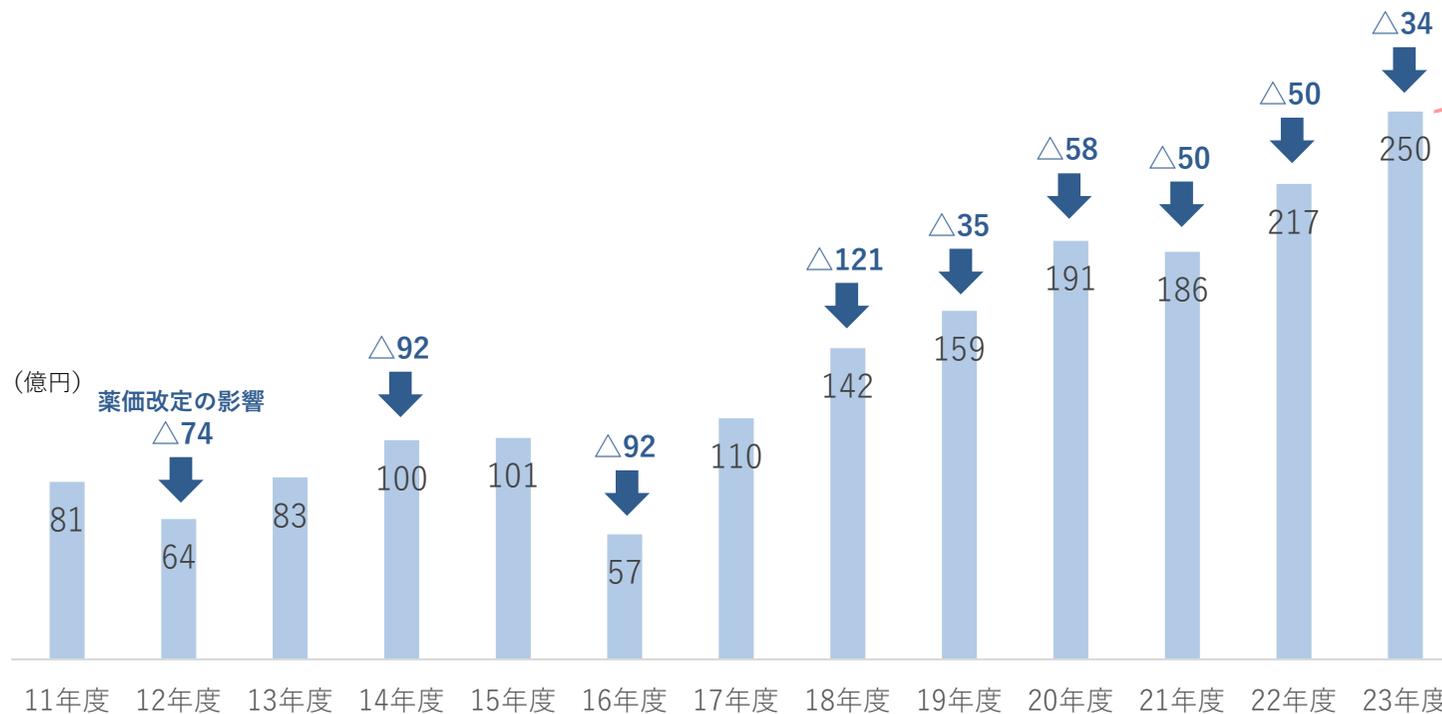
	14中計	17中計	20中計	23中計
原価アップ	△165億円	△61億円	7億円	△690億円
価格改定	46億円	152億円	126億円	771億円
売上増減	410億円	195億円	△181億円	△204億円
その他	11億円	139億円	81億円	△191億円

過去も原価アップの影響は、少し遅れて取り返してきた



価格改定の定着、付加価値の訴求に注力するとともに、構造改革にも着手

医薬品：営業利益の推移



- ・ 薬価改定に左右されないポートフォリオへの転換が完了
- ・ 今後は成長を加速するフェーズ

メドライクの子会社化

KMバイオロジクスの子会社化

・ DMバイオの譲渡
・ 農薬事業の譲渡

・ 動物薬事業の統合
・ ジェネリック事業の構造改革

営業利益の増減要因

	14中計	17中計	20中計	23中計
薬価改定	△166億円	△92億円	△214億円	△134億円
売上増減	197億円	84億円	24億円	192億円
その他	△12億円	18億円	270億円	0億円

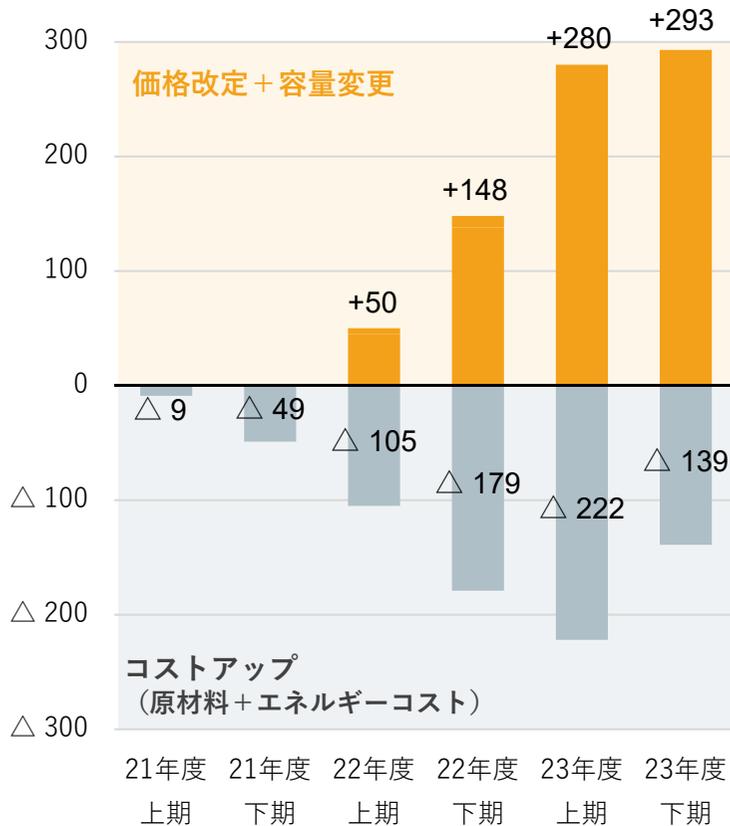
2023年度の位置づけ： 次の中期経営計画への助走期間

注力する取り組み

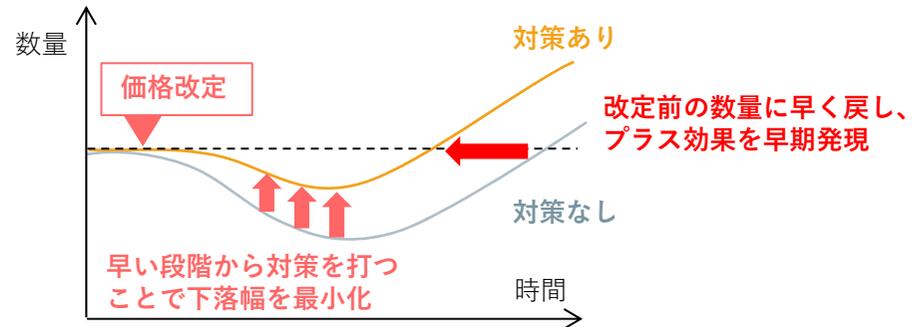
- **コストアップへの対応**
 - ✓ 価格改定の定着
 - ✓ マーケティング投資の継続
- **コア事業の戦略転換**
 - ✓ 付加価値追求による売上回復と安定収益の確保
 - ✓ 収益基盤強化のための構造改革に着手
- **次の成長ドライバーへの経営資源投下**
 - ✓ 海外展開、新規ワクチン開発
 - ✓ 医薬品開発パイプラインの加速
 - ✓ 新領域への挑戦、スタートアップやベンチャー企業との取り組み
- **サステナビリティと事業の融合の加速**

食品：コストアップへの対応

(億円) 営業利益への影響額



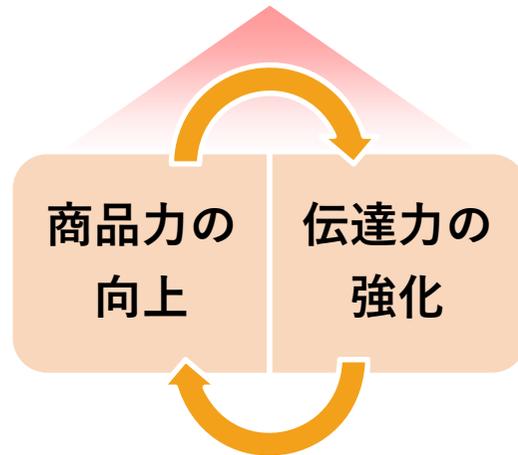
価格改定時の数量への影響イメージ



- 価格改定・容量変更の効果は徐々に拡大
 - 高付加価値商品の数量は回復。今後は数量を拡大するための商品戦略やマーケティングを強化
 - コモディティ商品は、価格改定の定着に時間を要し、数量は回復途上
- コストアップの影響は23年度上期まで高止まり。国内乳価の動向は注視
- 23年度のマーケティング投資は踏み込む

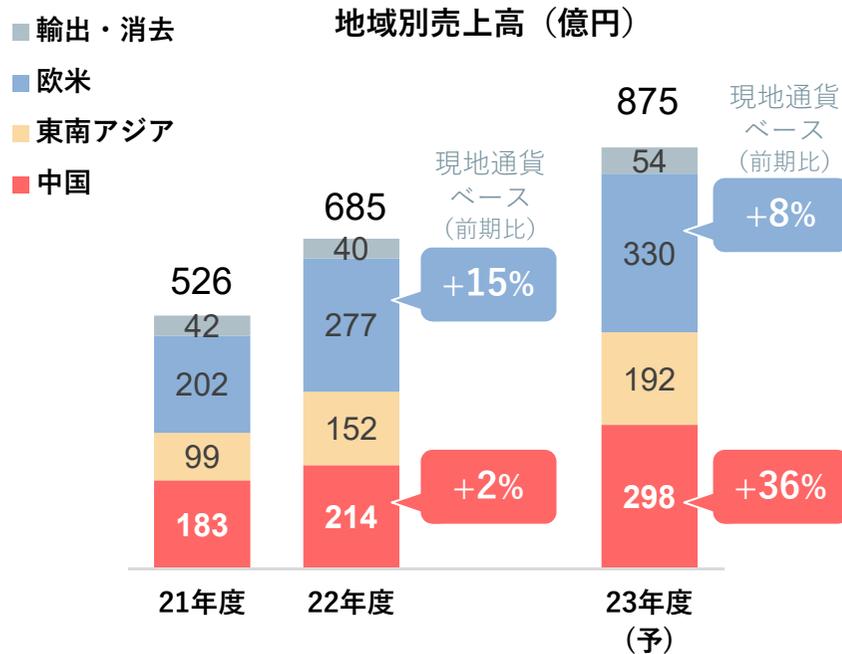
食品：コア事業は付加価値を追求し、安定収益を確保

付加価値向上を追求

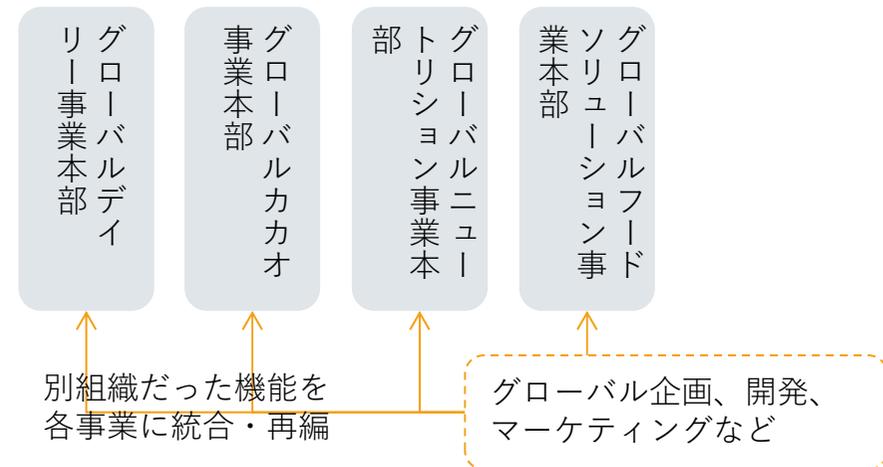


- プロバイオティクス
 - 「LG21」は若年顧客を新たに獲得し、好調維持
 - 「脂肪対策ヨーグルト」は好調に推移
 - 「R-1」はコンセプトを強化した新商品を発売し活性化を狙う
- ヨーグルト
 - 「ブルガリアヨーグルト」は10年ぶりに製法を変更し、おいしさアップ。ブランド50周年イヤーで露出を最大化
- チョコレート、グミ
 - ラインアップ拡大で新たな顧客層を開拓
 - 3月に「チョコレート効果プラス」を発売。今後は2つの機能性表示を記載し、さらに訴求強化
 - グミは、健康を意識した新商品を投入
- スポーツニュートリション
 - 「ザバス」はプレミアム化とシリーズ展開を強化。WEBプロモーションに引き続き注力

食品：海外事業の成長加速



- 4月、事業責任者が海外成長にも責任を負い、全社を挙げて成長を推進する体制に変更



- 中国牛乳・ヨーグルト事業：業務用の好調続く。市販用は1月に稼働した天津工場も活用して新商品を投入。販売エリアの拡大で回復目指す
- 中国菓子・アイスクリーム事業：商品力の高さが強み。広州と上海の新工場稼働に向けて、販売エリアの拡大で成長を継続
- 米国事業：原料高を価格改定で乗り越え反転攻勢へ。明治ブランドのチョコレートスナックを中心に販路を拡大

医薬品：ワクチン事業の強化・拡大

ワクチン市場は堅調に拡大する見通し
国の「ワクチン開発・生産体制強化戦略」に連動した取り組みを推進

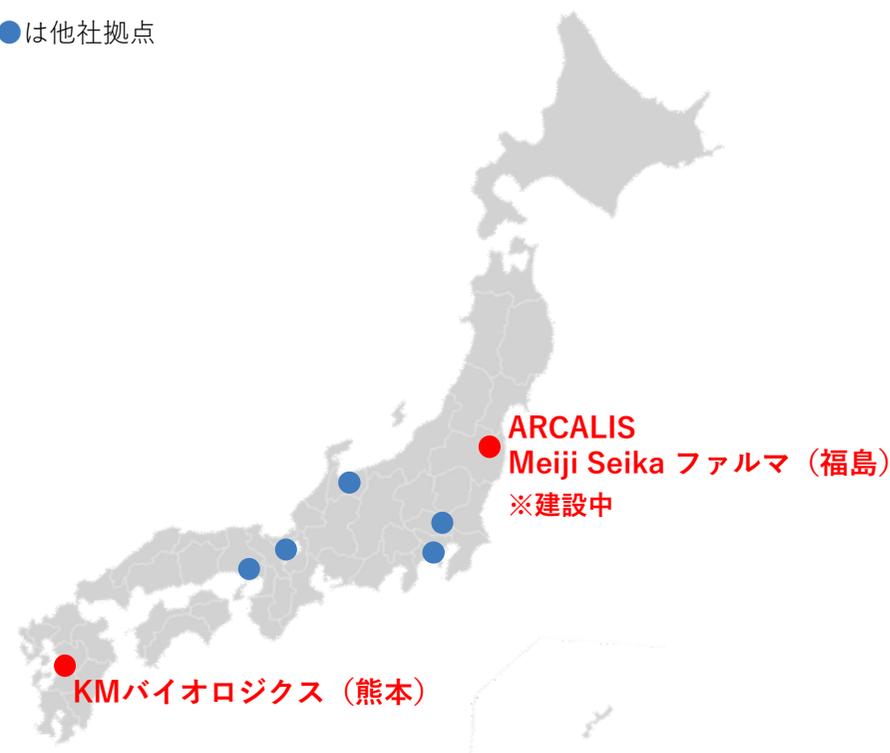
ワクチン開発・生産体制強化戦略

「経済財政運営と改革の基本方針2021」より
 (2021年6月18日閣議決定)

1	世界トップレベルの研究開発拠点形成
2	戦略性を持った 研究費のファンディング機能の強化
3	治験環境の整備・拡充
4	薬事承認プロセスの迅速化と基準整備
5	ワクチン生産拠点の整備
6	創薬ベンチャーの育成
7	ワクチン開発・製造産業の育成・振興
8	国際協調の推進
9	ワクチン開発の前提としての モニタリング体制の拡充

国内でワクチン生産が可能な拠点

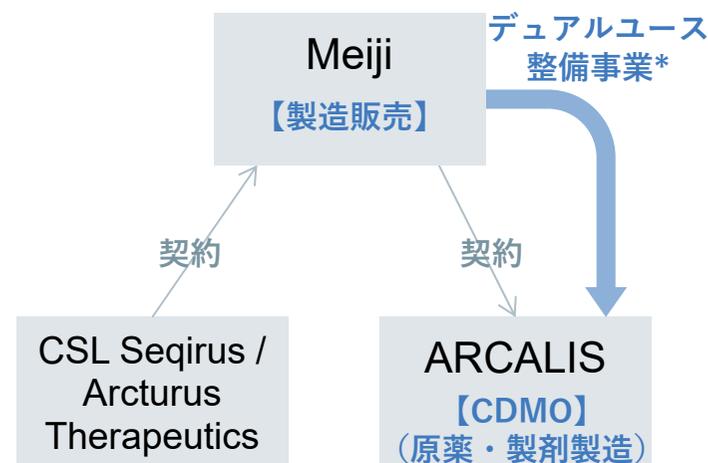
●は他社拠点



医薬品：ワクチン事業の強化・拡大

- COVID-19ワクチンの開発
 - 次世代mRNAワクチン（ARCT-154）
 - 4月11日 CSL Seqirus社と日本での供給・販売提携の契約締結
 - 4月28日 日本における製造販売承認申請
 - 不活化ワクチン（KD-414）
 - 1月31日 小児P3試験開始
- インフルエンザワクチンを取り巻く環境変化への対応
 - 早期出荷の実現
 - 接種啓発活動の強化
 - 新たな取り組み：mRNAワクチンの技術獲得、付加価値の高い製品の開発
- 経済産業省公募のデュアルユース整備事業*の確実な遂行
- グローバル戦略の検討・推進

ARCT-154の協業体制



*ワクチン生産強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業

※開発パイプラインはP.43-45を参照ください

医薬品：次の成長ドライバーの育成

研究開発のスピードアップ

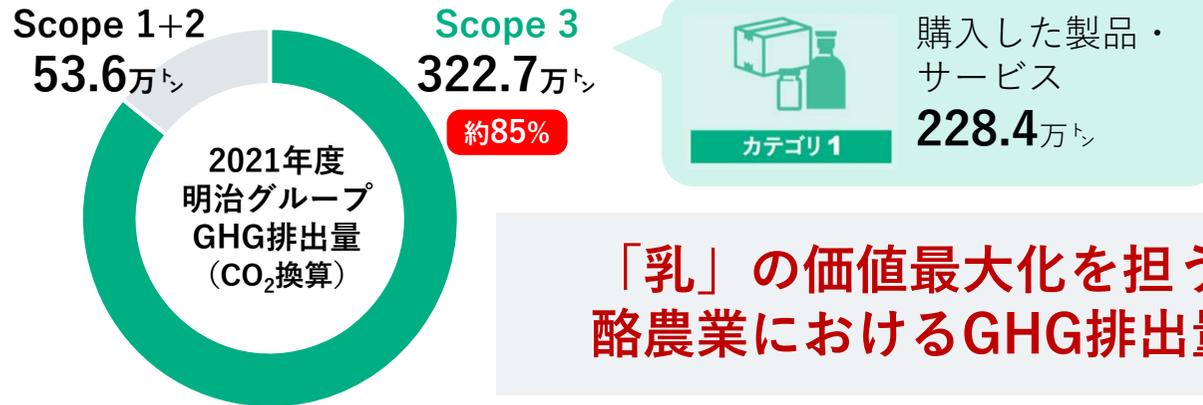
- ME3208（慢性GVHD治療薬）の申請準備
- 海外市場を視野に入れたDMB-3115（ウステキヌマブバイオ後続品）や ME3183（選択的PDE4阻害剤）などの開発加速
- R&Dステアリングコミッティーを中心とした研究開発ポートフォリオに関する意思決定や管理の強化
- ネットワーク型創薬研究の推進、外部連携の強化

CMO/CDMO*事業の強化・拡大

- インドにおける生産能力の拡大
 - アドコック・イングラム社の新製造棟が完成。23年度中の商業出荷開始に向けて必要な許認可の取得を進める
 - メドライク社の生産能力増強を計画
- 新規顧客の開拓と既存顧客との関係性強化
- 品目構成の見直しなどによる生産性の向上

*CMO/CDMO事業：受託製造/受託開発製造事業
※開発パイプラインはP.43-45を参照ください

酪農のサステナビリティ

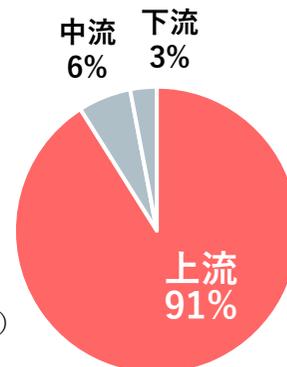


「乳」の価値最大化を担うトップメーカーとして
酪農業におけるGHG排出量削減は最優先課題

牛乳のCFP算定

- 国際基準・国際団体を参考とし、酪農家の実データに基づき算定
- 環境負荷を可視化し、業界全体への啓発活動に活用

「明治オーガニック牛乳」の
CFP算定結果



※上流（原材料調達）、
中流（生産）、下流（流通～廃棄）

Jクレジット制度の活用

- アミノ酸バランス改善飼料でGHGを削減し、削減量をクレジット化
- 新たな収入源として酪農家支援につなげる

持続的な成長を支える経営基盤の強化

人財マネジメントの改革

- グループ人財委員会での議論を経て、2050年の目指す姿と数値目標を設定

女性比率

50%

キャリア採用者比率

30%以上

グローバル人財比率

30%以上

- 2023年4月 CHRO（Chief Human Resource Officer）設置
グループ人財委員会傘下に新たに「労働安全分科会」を設置
企業の女性役員比率向上を目指す「30% Club Japan」に加盟

知的財産戦略の推進

- 2023年4月 明治ホールディングスに知的財産戦略を統括する組織を設置
 - ・ グループ全体の知的財産戦略の策定・実行
 - ・ ウェルネスサイエンスラボ（価値共創センターを改称）と連携し、長期的視野に基づく特許ポートフォリオを構築

3. 財務戦略・株主還元

設備投資と株主還元

営業キャッシュフロー

23中計（見込み）
2,725億円

21-22年度実績 + 23年度計画
2,125億円 600億円

資産売却

23中計（見込み）
約1,000億円

- 政策保有株式の縮減
23年度末で
30%削減（20年度簿価比）
- 事業譲渡、有形固定資産売却など
21-22年度実績
 - ・ 農薬事業譲渡
 - ・ DMバイオ譲渡
 - ・ 研究所跡地売却 など

設備投資

21-22年度 実績	23年度 計画	23中計 (見込み)	23中計 (当初)
1,653億円	628億円	2,282億円	2,740億円

- 23年度の主な投資は海外事業関連
- 23中計で当初予定していた投資額との差は、主に食品セグメントにおける工期の遅延や見直しによる

株主還元

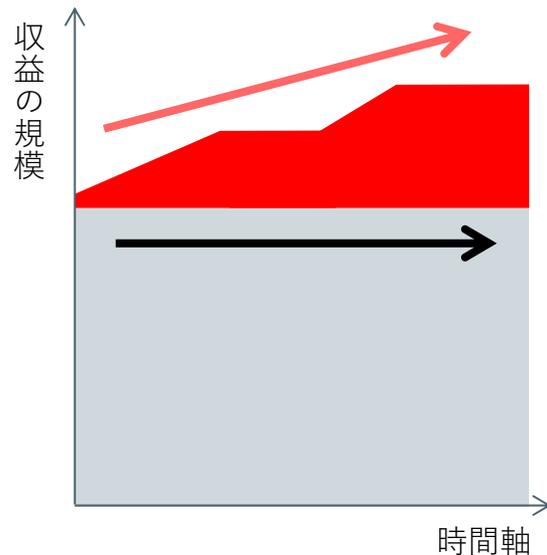
	21年度実績	22年度実績	23年度計画
年間配当金	85円	90円	95円
配当性向	28.0%	36.4%	52.3%
自己株式取得	300億円	100億円	—

- 継続的に増配し、配当性向を40%まで段階的に引き上げる方針に沿って、還元を強化

4. 明治ROESG[®]経営の進化

2026中期経営計画（2024～2026年度）では、 市場創造力と安定したキャッシュ創出力を強化する

明治グループの持続的な成長モデル
安定した収益基盤の上に、新しい市場を切り拓いた事業の
先行者利益を上乗せする



■市場創造力

- ・基盤となる強み
研究開発・技術力、マーケティング力 など
- ・課題
長期視点で成長する市場を狙い、プロバイオティクスに次ぐ業績けん引役を早期に築く

■安定したキャッシュ創出力

- ・基盤となる強み
ブランド力、付加価値の高い製品ポートフォリオ、商品ライフを長期化する知財や技術 など
- ・課題
外部環境や競争環境の変化に応じて、資本効率向上の取り組みを一層進める

明治ROESG®経営の進化に向けて

- **市場創造力の強化**
 - ✓ サステナビリティと事業の融合＝“トレードオン”の追求
 - ✓ 成長期待市場への積極投資
(海外、ワクチン、ニュートリション、ウェルネスサイエンス など)
- **安定したキャッシュ創出力の維持・強化**
 - ✓ ROICを活用した事業ポートフォリオの見直し、資本効率の向上
 - ✓ SKU削減、生産体制見直しなどの構造改革
 - ✓ デジタル技術の活用など新たな施策による既存事業の強化
- **上記を実現する経営基盤の強化**
 - ✓ 経営戦略に連動した人財戦略の実践

**2026中期経営計画は2024年5月発表予定
2023年度中に収益回復に向けた準備を整える**



参考資料

2022年度通期 連結経営成績

(億円)	22年度 通期実績	前期比	主な内容
売上高	10,621	+4.8% +490	— (詳細はP2-4参照)
営業利益	754	△18.8% △174	— (詳細はP2-4参照)
営業外収益	46	△14.6% △7	・持分法による投資利益 (△15) ・為替差益 (+3) ・受取利息 (+1) ・受取配当金 (+1)
営業外費用	58	+35.9% +15	・持分法による投資損失 (+21) ・開業費 (+8) ・その他 (△14)
経常利益	741	△21.1% △198	—
特別利益	296	△41.7% △211	・関係会社株式売却益 (△336) ・固定資産売却益 (+162)
特別損失	83	△48.7% △79	・固定資産圧縮損 (△84)
税金等調整前 当期純利益	954	△25.7% △330	—
法人税等	239	△33.7% △121	・法人税、住民税及び事業税 (△75) ・法人税等調整額 (△45)
非支配株主に 帰属する当期純利益	20	△57.6% △28	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	694	△20.7% △180	—

2022年度通期 連結財政状態

(億円)	23年3月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	4,709	+3.4% +153	・原材料及び貯蔵品 (+116) ・その他 (+56) ・仕掛品 (+13) ・現金及び預金 (△38)
固定資産	6,652	+0.5% +34	・繰延税金資産 (+72) ・建設仮勘定 (+56) ・建物及び建築物 (純額) (+47) ・投資有価証券 (△114) ・土地 (△31)
資産合計	11,362	+1.7% +187	—
流動負債	2,662	△7.2% △205	・短期借入金 (△133) ・未払法人税等 (△88)
固定負債	1,186	+0.9% +10	・長期借入金 (+64) ・退職給付に係る負債 (+15) ・その他 (+28) ・社債 (△100)
負債合計	3,849	△4.8% △195	—
株主資本	6,651	+5.1% +322	・利益剰余金 (+418) ・自己株式 (△96)
その他の包括利益 累計額	467	+15.6% +63	・為替換算調整勘定 (+101) ・その他有価証券評価差額金 (△47)
非支配株主持分	393	△0.7% △2	—
純資産合計	7,513	+5.4% +382	—
有利子負債	643	△20.8% △168	・短期借入金 (△133)
自己資本比率	62.7%	+2.4 pt	—

2022年度通期 連結キャッシュフロー

(億円)	22年度通期実績		
	22年度通期実績	前期比	主な内容
営業キャッシュフロー	850	△425	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前当期純利益 (△330) ・有形固定資産売却損益 (△173) ・契約負債の増減額 (△106) ・固定資産圧縮損 (△84) ・たな卸資産の増減額 (△81) ・関係会社株式売却損益 (+335)
投資キャッシュフロー	△367	△91	<ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券の売却による収入 (△442) ・補助金の受取額 (△73) ・有形及び無形固定資産の売却による収入 (+217) ・有形固定資産の取得による支出 (+195)
財務キャッシュフロー	△547	+222	<ul style="list-style-type: none"> ・自己株式の増減額 (+202) ・長期借入れによる収入 (+97) ・短期借入金の純増減額 (+57) ・社債の発行による収入 (△99) ・長期借入金の返済による収入 (△19)
フリーキャッシュフロー	482	△516	—

2022年度・2023年度 財務指標

(億円)	21年度	22年度	前期比	23年度	前期比
	通期実績	通期実績		通期計画	
売上高	10,130	10,621	+4.8% +490	11,020	+3.8% +398
営業利益	929	754	△18.8% △174	780	+3.4% +25
営業利益率	9.2%	7.1%	△2.1 pt	7.1%	△0.0 pt
親会社株主に帰属する当期純利益	874	694	△20.7% △180	510	△26.5% △184
EPS	303.62円	247.39円	△56.24円	181.73円	△65.65円
1株当たり配当金	85円	90円	+5円	95円	+5円
配当性向	28.0%	36.4%	+8.4 pt	52.3%	+15.9 pt
ROE	13.5%	10.0%	△3.5 pt	7.0%	△3.0 pt
ROIC	8.4%	6.3%	△2.1 pt	6.5%	+0.2 pt
設備投資額	931	721	△22.5% △209	628	△12.8% △92
営業CF	1,275	850	△33.3% △425	600	△29.4% △250
フリーCF	999	482	△51.7% △516	100	△79.3% △382

食品：事業別売上高・営業利益

		(億円)		23年度		
		21年度 通期実績	22年度 通期実績	前期比	通期計画	前期比
ヨーグルト ・チーズ	売上高	2,097	2,025	△3.5% △72	2,031	+0.3% +5
	営業利益	349	241	△30.9% △108	252	+4.6% +11
ニュートリション	売上高	1,096	1,168	+6.6% +72	1,228	+5.1% +60
	営業利益	193	146	△24.5% △47	169	+15.9% +23
チョコレート ・グミ	売上高	980	1,028	+4.9% +47	1,031	+0.3% +3
	営業利益	126	111	△11.8% △14	111	△0.3% △0
牛乳	売上高	761	715	△6.1% △46	760	+6.3% +44
	営業利益	△7	△25	— △17	△30	— △5
業務用食品	売上高	658	711	+8.2% +53	764	+7.4% +52
	営業利益	27	30	+12.8% +3	42	+36.7% +11

食品：事業別売上高・営業利益

		(億円)				
		21年度 通期実績	22年度 通期実績	前期比	23年度 通期計画	前期比
フローズン ・調理食品	売上高	582	579	△0.5% △3	605	+4.4% +25
	営業利益	29	32	+10.1% +2	36	+11.3% +3
海外	売上高	526	685	+30.3% +159	875	+27.7% +189
	営業利益	△10	△9	— +0	△24	— △14
その他 ・国内子会社	売上高	1,557	1,741	+11.8% +183	1,572	△9.7% △168
	営業利益	50	30	△38.9% △19	3	△89.8% △27

食品：主な事業概況

■ ヨーグルト・チーズ事業

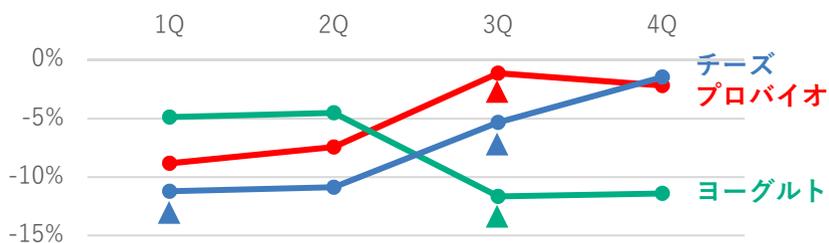
(億円)	22年度 通期実績		23年度 通期計画	
		前期比		前期比
売上高	2,025	△3.5% △72	2,031	+0.3% +5
営業利益	241	△30.9% △108	252	+4.6% +11

● 22年度の市場動向

- ヨーグルト：△0～△1%
- チーズ：△2～△4%

● 当社の概況

- 22年度の売上数量推移（前年同期比, ▲: 価格改定）



- ヨーグルトの数量回復が課題

■ ニュートリション事業

(億円)	22年度 通期実績		23年度 通期計画	
		前期比		前期比
売上高	1,168	+6.6% +72	1,228	+5.1% +60
営業利益	146	△24.5% △47	169	+15.9% +23

● 22年度の市場動向

- スポーツプロテイン（粉末・顆粒）：店頭は△2～△3%、ホエイ商品を中心にECは好調
- 乳幼児ミルク、流動食：前期を上回る

● 当社の概況

- 22年度の売上数量推移（前年同期比, ▲: 価格改定など）



- 「ザバス」は数量回復
- 乳幼児ミルクはインバウンド需要で好調
- 流動食はラインアップ拡充で成長目指す

食品：主な事業概況

■ チョコレート・グミ事業

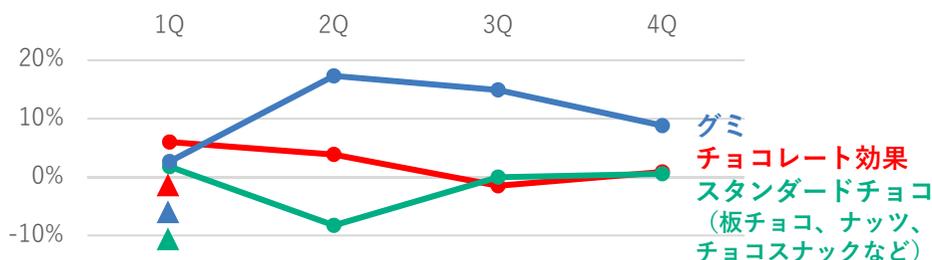
(億円)	22年度 通期実績		23年度 通期計画	
		前期比		前期比
売上高	1,028	+4.9% +47	1,031	+0.3% +3
営業利益	111	△11.8% △14	111	△0.3% △0

● 22年度の市場動向

- チョコレート：△1～△2%
- グミ：+23～+24%

● 当社の概況

- 22年度の売上数量推移（前年同期比, ▲: 価格改定）



- スタンダードチョコレートは価格競争に晒されたが、徐々に数量回復

■ 海外事業

(億円)	22年度 通期実績		23年度 通期計画	
		前期比		前期比
売上高	685	+30.3% +159	875	+27.7% +189
営業利益	△9	— +0	△24	— △14

● 中国での生産能力拡大

- 牛乳・ヨーグルト：
 - 23年1月 天津工場稼働
 - 24年春 広州工場稼働予定
- 菓子：
 - 24年春 広州工場稼働予定
- アイスクリーム：
 - 24年中 上海工場稼働予定

食品：2022年度通期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フローズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
21年度通期 営業利益 (実績)	759	349	193	126	△7	27	29	△10	50
売上増減	+137	△22	+43	+36	△1	+35	+21	+13	+12
原価の変動	△227	△46	△64	△41	△13	△22	△22	△10	△9
経費等の増減	△99	△46	△27	△9	△1	△9	+4	△3	△8
マーケティング費用 等の変動	△33	△33	△3	+0	+8	△2	+1	△0	△3
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△66 (△2)	△14	△24	△9	△9	△7	+3	△2	△4
その他 (子会社損益など)	△11	+6	+0	△1	△2	△0	+0	+0	△15
22年度通期 営業利益 (実績)	558	241	146	111	△25	30	32	△9	30

食品：2023年度上期計画 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フローズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
22年度上期 営業利益 (実績)	293	120	86	32	△8	10	27	0	23
売上増減	+264	+89	+63	+24	+27	+38	+18	+3	+1
原価の変動	△188	△47	△44	△21	△28	△23	△12	△1	△11
経費等の増減	△86	△32	△14	△12	△9	△8	△6	△6	+1
マーケティング費用 等の変動	△35	△13	△8	△3	△7	△1	△2	△1	+0
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△51 (△5)	△19	△6	△9	△2	△6	△4	△5	+1
その他 (子会社損益など)	△24	+1	+0	△2	△0	+0	△0	△18	△5
23年度上期 営業利益 (計画)	259	131	91	21	△18	17	26	△20	9

食品：2023年度通期計画 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フローズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
22年度通期 営業利益 (実績)	558	241	146	111	△25	30	32	△9	30
売上増減	+496	+151	+118	+71	+60	+64	+36	+8	△13
原価の変動	△307	△79	△60	△36	△49	△42	△19	△2	△19
経費等の増減	△167	△61	△34	△30	△15	△11	△13	△11	+7
マーケティング費用 等の変動	△70	△25	△17	△11	△11	△1	△4	△2	+1
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△97 (△13)	△35	△18	△19	△3	△9	△9	△9	+6
その他 (子会社損益など)	△21	+1	△0	△5	△2	+0	△1	△10	△4
23年度通期 営業利益 (計画)	560	252	169	111	△30	42	36	△24	3

食品：主力品の売上動向

(億円)	21年度	22年度	前期比	23年度	前期比
	通期実績	通期実績		通期計画	
ヨーグルト	818	761	△6.9%	774	+1.8%
プロバイオティクス ヨーグルト	980	954	△2.7%	1,002	+5.1%
市販チーズ	291	282	△3.1%	282	+0.1%
チョコレート	963	991	+3.0%	1,038	+4.7%
乳幼児ミルク・流動食	635	673	+5.9%	683	+1.6%
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	428	452	+5.7%	475	+5.0%
市販・宅配牛乳	771	723	△6.3%	724	+0.2%
市販アイスクリーム	402	416	+3.5%	435	+4.6%

医薬品：事業別売上高・営業利益

		(億円)				
		21年度 通期実績	22年度 通期実績	前期比	23年度 通期計画	前期比
国内医薬品	売上高	907	1,001	+10.4% +94	1,114	+11.2% +112
	営業利益	36	101	+175.8% +64	130	+28.1% +28
海外医薬品	売上高	403	514	+27.4% +110	555	+7.9% +40
	営業利益	40	77	+92.5% +37	52	△32.5% △25
ヒト用ワクチン	売上高	427	347	△18.6% △79	378	+8.6% +30
	営業利益	114	24	△78.6% △89	62	+153.3% +37
動物薬*	売上高	141	108	△23.0% △32	108	△0.7% △0
	営業利益	△4	14	— +18	6	△57.8% △8

医薬品：主な事業概況

国内医薬品事業

(億円)	22年度 通期実績	前期比	23年度 通期計画	前期比
売上高	1,001	+10.4% +94	1,114	+11.2% +112
営業利益	101	+175.8% +64	130	+28.1% +28

海外医薬品事業

売上高	514	+27.4% +110	555	+7.9% +40
営業利益	77	+92.5% +37	52	△32.5% △25

ヒト用ワクチン事業

売上高	347	△18.6% △79	378	+8.6% +30
営業利益	24	△78.6% △89	62	+153.3% +37

- 薬価改定率：22年度 6%台、23年度 約5%
- アレルギー性疾患治療薬「ピラノア」好調
- ジェネリック医薬品の数量拡大、基礎的医薬品の薬価維持が事業安定に寄与
- 23年度は「ARCT-154」の貢献を織り込む
- インド子会社のCMO/CDMO事業は引き続き好調
- スペイン子会社もCOVID-19の影響から回復
- 23年度も売上伸長するが、コストアップとロイヤリティ収入減により減益見込み
- 22年度はインフルエンザワクチンの返品額が増加。23年度は早期出荷と啓発活動強化により例年並みの返品を見込む
- 23年度は定期接種ワクチンなどの伸長で増収増益を目指す

医薬品：2022年度通期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬*
21年度通期 営業利益 (実績)	186	36	40	114	△4
売上増減	+67	+97	+19	△16	△33
薬価改定の影響	△50	△50	—	—	—
原価の変動	+3	△1	△3	+7	+0
経費等の増減	+44	+10	△2	△3	+39
マーケティング費用等の変動	+24	+1	△1	+3	+21
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+20 (+29)	+8	△1	△6	+18
その他 (子会社損益など)	△34	+9	+22	△78	+13
22年度通期 営業利益 (実績)	217	101	77	24	14

*21年度には事業譲渡前の農薬事業の実績（第3四半期累計）が含まれます。また22年4月に動物薬および動物用ワクチン事業を担う明治アニマルヘルス株式会社が設立されたことに伴い、22年度の動物薬事業の営業損益は「その他（子会社損益など）」に集約されています。

医薬品：2023年度上期計画 事業別営業利益 増減分析 **meiji**

(億円)

	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬
22年度上期 営業利益 (実績)	146	54	36	48	7
売上増減	△26	△23	△0	△3	—
薬価改定の影響	△16	△16	—	—	—
原価の変動	△8	△2	△6	+0	—
経費等の増減	△12	+2	△8	△7	—
マーケティング費用等の変動	+0	+2	△1	△0	—
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△13 (△21)	+0	△6	△6	—
その他 (子会社損益など)	△11	△7	△1	+2	△5
23年度上期 営業利益 (計画)	73	8	22	41	2

医薬品：2023年度通期計画 事業別営業利益 増減分析 **meiji**

(億円)

	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬
22年度通期 営業利益 (実績)	217	101	77	24	14
売上増減	+71	+58	△5	+18	—
薬価改定の影響	△34	△34	—	—	—
原価の変動	△13	△4	△9	+0	—
経費等の増減	+16	+29	△11	△2	—
マーケティング費用等の変動	△1	+5	△3	△3	—
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+17 (△37)	+23	△8	+1	—
その他 (子会社損益など)	△8	△20	+0	+22	△8
23年度通期 営業利益 (計画)	250	130	52	62	6

医薬品：開発パイプラインー1

	開発コード（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
領域 感染症	OP0595* (ナキュバクタム)	β -ラクタマーゼ阻害薬	カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株による各種感染症	Phase III（国内・海外）**
新領域	ME3208 (ベルモスジル)	ROCK2阻害剤	慢性移植片対宿主病 (cGVHD)治療薬 (ROCK 2阻害剤)	申請中 (韓国) Phase III
	DMB-3115	バイオ後続品	尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病/潰瘍性大腸炎	申請準備中 (海外) Phase I
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤	切除不能または転移性悪性黒色腫治療薬	Phase III (国内・海外) **
	ME3183*	PDE4阻害剤	乾癬治療薬	Phase II (海外)
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤	再発・難治性B細胞性非ホジキンリンパ腫治療薬	Phase Ib / II
ワクチン	KD-370	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防	申請中
	ARCT-154	ワクチン	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の予防	申請中 Phase III

* 自社創製
** 国際共同治験

医薬品：開発パイプラインー2

	開発コード（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
ワクチン	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防	Phase III（成人40歳以下）** Phase III（小児） Phase II/III Phase II/III（小児） Phase I/II
	KD-382	ワクチン	デング熱の予防	Phase I（海外）
	KD2-396	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防	Phase I
血漿分画製剤	KD2-305*	血漿分画製剤	血液凝固第Ⅷ因子又は第Ⅸ因子に対するインヒビターを保有する患者の出血傾向の抑制	承認

医薬品：開発パイプラインー3

	開発コード	薬効/作用	開発段階
動物用医薬品	ME4137	抗菌性注射剤（牛）	申請中
	ME4137	抗菌性注射剤（豚）	申請中
	KD-412*	ワクチン（牛）	申請中
	MD-22-3002	抗炎症剤（牛、豚、馬）	開発中
	ME4305*	抗菌性製剤（牛）	開発中
	MD-22-1001-1	抗菌性注射剤（牛）	開発中
	ME4406*	飼料添加物	開発中

明治ROESG® : ESG評価目標



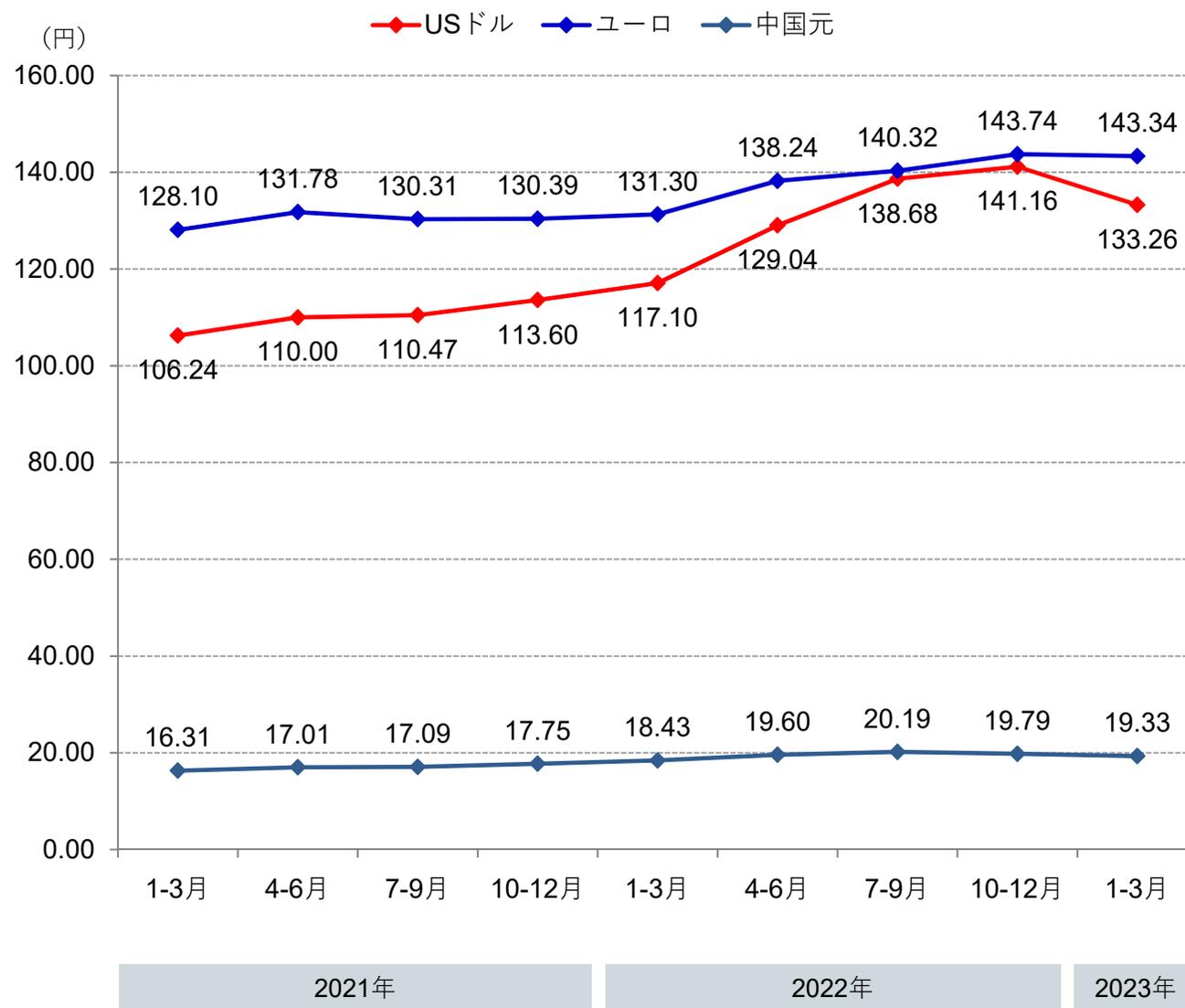
*5指標達成：1.2倍
4指標達成：1.0倍
3指標以下：0.8倍

評価指標	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度目標
MSCI ESG Ratings	BB	BBB	A	A
DJSI*	52点	55点	61点	65点
FTSE4Good**	3.0点	3.0点	3.7点	3.8点
CDP (Climate Change)	A-	A-	A	A
CDP (Water Security)	A-	A	A	A

*DJSIの目標はパーセンタイルではなく、点数の設定に改めました。これは、他社の評価の影響を受けて変動するパーセンタイルより、目標管理方法として適していると判断したためです

**FTSE4Goodは、当初の23年度目標3.5点を22年度に達成したことに伴い、見直しました

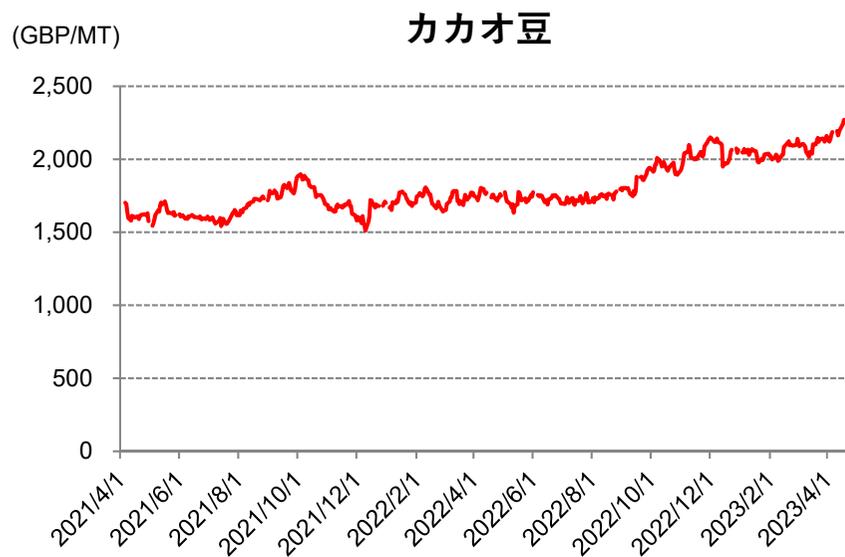
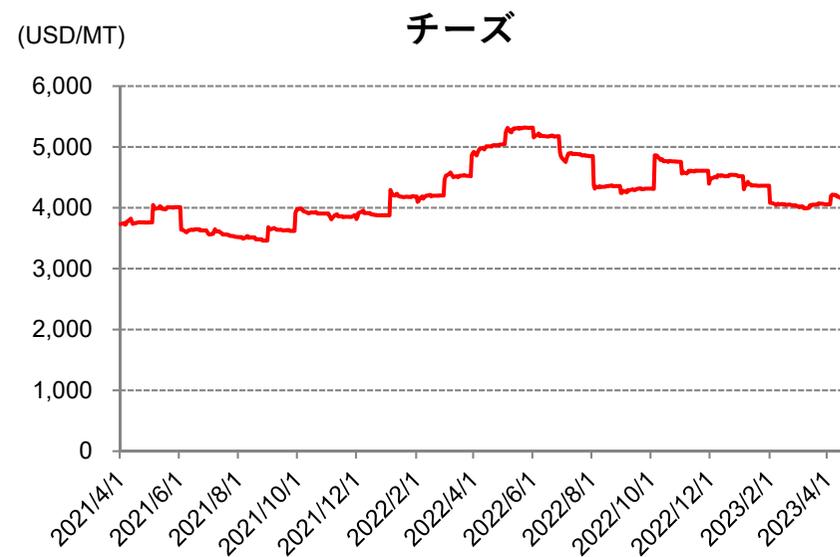
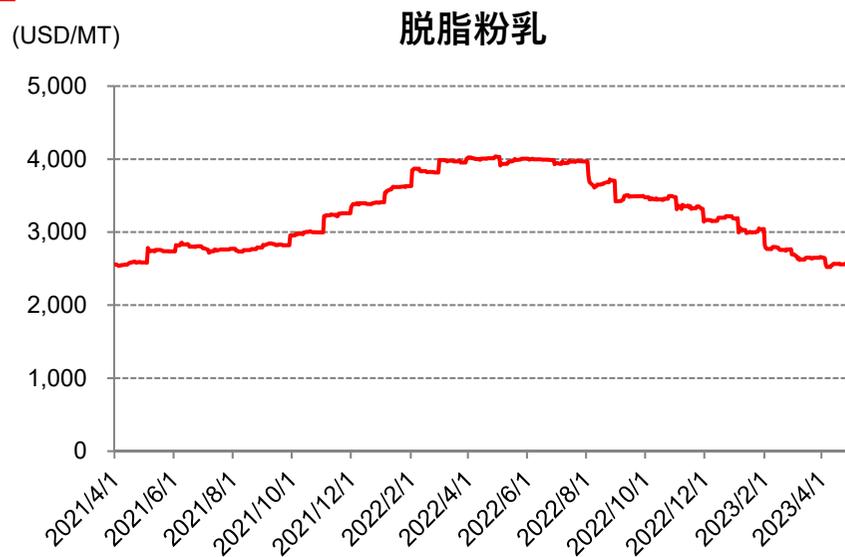
主要通貨と当社平均レート



23年度計画の為替前提

U S ドル	140円
ユーロ	140円
中国元	20円

主要輸入原料相場の動向



健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。